

ホスピス・緩和ケアフォーラム in 大分



今回で31回目を迎えたホスピス・緩和ケアフォーラムが、天心堂へつぎ病院の協力を得て、大分市で開催されました。当日は予想をはるかに超える市民の方々や医療従事者が参加され、大分でのホスピス・緩和ケアへの関心の高さを窺うことができました。また、講演、シンポジウムの後、会場から熱心な質問も多くだされ、有意義なフォーラムになりました。

特別講演では、講師の山崎章郎先生が、ご自身がなぜホスピス医を目指されたのかを語られ、ホスピス医として、聖ヨハネホスピスに勤務されましたが、患者さんから、「ホスピスでケアを受けることができ、本当に良かったです。

日時 ; 2019年2月2日(土) 13:00 ~ 17:00

場所 ; 大分市コンパルホール 文化ホール

特別講演: 「在宅緩和ケア…ケアタウン小平の取り組み」

講師 山崎章郎氏、座長 山岡憲男氏

シンポジウム: 「緩和ケアって何？」

パネリスト 久松靖史氏、麻生哲郎氏

吉良良子氏、甲斐裕子氏

特別コメンテーター 林 良彦氏

参加者 ; 450名

でも、本音を言えば、家にいたかった。」との声に心動かされ、「ホスピスチームが、ホスピスという施設で待っているのではなく、地域に出よう」をモットーに、ケアタウン小平チーム活動を立ち上げられ、その活動内容を詳しく語られました。



ホスピス・緩和ケアフォーラムに参加して

看護師 甲斐 美智子

シンポジウムでは「緩和ケアって何？」をテーマに地域がん診療連携拠点病院、在宅クリニック、緩和ケア病棟、訪問看護師の皆様がそれぞれの視点から、緩和ケアの内容や事例について話をして下さいました。

私は一般病院で勤務している看護

師です。当院を退院した緩和の患者さんのその後は、気になっていても知ることはありませんでした。今回のフォーラムで患者さんのその後を知ることが出来ました。事例では在宅で家族とやりたい事を叶えながら生ききった患者さんの姿、施設で最後まで生き甲斐や楽しみを持って生きていた患者さんの姿について理解

を深めました。どの事例も病院とスムーズな連携をしており、私も連携の一翼を担っていると気付かされました。今まではそれ程意識していませんでしたが、今回のフォーラムで緩和ケアについての情報を知ることが出来ました。

今後は私も情報を発信出来る側になりたいと思います。

シンポジウム「グリーフケアの実践と限界」



学術大会

日時：2019年2月23日(土) 24日(日)
場所：龍谷大学大宮キャンパス

シンポジウム演者

座長 柏木雄次郎氏、宮林幸江氏
パネリスト：

柏木雄次郎氏、石田真弓氏
黒川雅代子氏、谷川洋三氏

過去9回に亘ってホスピス財団との共催で開催されていた「グリーフ&ビリーブメントカンファレンス」が、この度、「日本グリーフ&ビリーブメント学会」として発足し、その第1回学術大会が、2月23日(土)24日(日)京都、龍谷大学にて開催されました。そしてシンポジウム「グリーフケアの実践と限界」が学会とホスピス財団の共催で行われました。学術大会は前日を含め、全体で約350名の参加があり、グリーフケアへの関心の高さが窺えました。

ホスピス財団が実施した調査研究が論文として掲載されました

ホスピス財団は、2017年度に高齢者施設における介護職員の看取りに対する認識とその認識に影響する要因を明らかにすることを目的として、高齢者施設における介護職員を対象に、看取りに関する調査研究を実施しました。今般その結果を東京有明医療大学看護学部川上嘉明教授が中心となり『介護職員の看取りに対する認識と認識に影響する要因：混合研究法を用いた探索的研究』として論文化し“Palliative Care Research”（日本緩和医療学会オンラインジャーナル）へ投稿した結果、2019年2月に採択され、この度公表されました。

論文は、“Palliative Care Research”2019年第14巻1号に公開されています。

またホスピス財団ホームページでも閲覧が可能です。



シンポジウム 「グリーフケアの実践と限界」 に参加して

藤本実希

(元国立がん研究センター中央病院・看護師)

日本グリーフ&ビリーブメント学会と、日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団の共催のシンポジウム「グリーフケアの実践と限界」に参加した。

最も印象に残っているのは、遺族外来の患者さんの9割が他病院での看取りを経験した方であったという石田真弓先生の発表だった。故人と一緒に通っていた病院に足を運ぶことがどれだけ辛く、悲しいことなのかを痛感し、お看取り後、病棟に来てくださったご遺族の方々はどれだけのエネルギーを使って、いらしてくださったのかと思いついて感謝の気持ちでいっぱいになった。病院や遺族会での遺族ケアの限界と課題として、さまざまな理由から病院や遺族会に足を運べない方へのサポートが必要になる。それを実現していくためには、各医療機関や団体、行政などをつなぐネットワークをつくり、切れ目のないグリーフケアが地域全体で行われることが求められていると改めて強く感じた。

また、谷山洋三先生による宗教資源の活用の可能性についての発表も印象に残っている。日本人は無宗教の人が多くともいわれるが、特定の宗教を持たない方でも折鶴や御守りなどを身近に感じている方は多い。これらの資源は宗教という範囲を超え、生活に馴染み、日本人にとってひとつの文化とも言えるのかもしれない。

今後、日本らしさを大切にしたいグリーフケアを考えていくことも必要だろう。今回の貴重な学びを今後の研究・実践に活かしていきたい。

お知らせコーナー

●ホスピス財団 第3回国際セミナー

Dobkin 先生による『マインドフルネスに基づく医療の実践』

- ・2019年9月7日(土) 東京
9月8日(日) 大阪
- ・参加費：1,000円(資料代)
- 詳細、申込み方法はホームページから



●ホスピス・緩和ケアボランティア研修会

- ・2019年6月13日(木)
大阪市(クレオ大阪東部館ホール)
- ・講演：柏木哲夫氏
- ・映画：「四万十 いのちの仕舞い」
- 詳細は後日、ホームページに掲載いたします



●Whole Person Care ワークショップ

好評のWPCワークショップが本年も開催されます。

- ・コースI：2019年8月17日(土)
- ・コースII：2019年8月18日(日)
- ・会場：千里ライフサイエンスホール
- 詳細、申込み方法はホームページから



●ホスピス・緩和ケア白書 2019 発売中

特集テーマ：ホスピス・緩和ケアにおける看護
…教育・制度の現状と展望
発行所：青海社 3,000円+税
お求めは書店で
(ホスピス財団賛助会員には無料で送付しております)

新刊・近刊紹介

ひとりの覚悟

山折 哲雄

(ポプラ新書・800円+税)



人生100年時代と言われるが、果たしてこれは本当に幸せなことだろうかと考えてしまう方も多いのではないだろうか。人は長生きすれば、同時に生老病死という何とも厄介な問題も抱えてしまう。

87歳を迎えた筆者は、自らの最晩年を思いつつ、理想の“逝き方”を求めて思索の旅を重ねていく。その思索の底流にあるのは、古来より日本人の持つ“この世のなにもをも死を免れえない”“生と死は表裏一体である”という無常観であり、人は寿命を悟ることが大切さであると説く。さらに筆者は“死の規制緩和”としての安楽死解禁などの新しい施策を提言している。最後に筆者は言う「私は断食死を選びたい」と。

私たち一人ひとりに、自らの死に様を考えさせられる好著として一読を薦めたい。

こんにちは
ホスピス

静けさと温もりに包まれて自分らしく生きるために

聖隷三方原病院ホスピス科 部長 井上 聡

聖隷三方原病院では、1975年からホスピス建設を計画し、1981年4月より一般病棟でホスピスケアが行われていました。そして結核病棟の一部を改築・整備し、1981年11月わが国で最初のホスピス(緩和ケア病棟)として開設しました。翌年にはマザー・テレサが来訪されました。しかし、院内全体の理解はなかなか得られず、1990年厚生省より緩和ケア病棟の認可を受けてからでした。1994年には天皇・皇后両陛下がホスピスをご視察



聖隷ホスピス全景

されました。1997年には新ホスピス棟が完成しました。27床全室個室で個室料はありません。そのため経済的に困っておられる方にも安心してご利用頂けます。今年38年目

を迎えましたが、以前利用された方のご家族や知人がまた利用して下さることも増えており感謝です。しかし残念なことに、静岡県にはホスピス・緩和ケア病棟が4施設しかなく、西部地域では唯一のためせっかく希望されても利用できない方も多く、その解決に苦慮しています。毎日多職種でカンファレンスを行いながらチームで患者さんとご家族を支えています。さらにホスピス内にチャペルもあり、チャプレン(病院付牧師)が魂の安らぎを与えて下さいます。ボランティアの方々も散歩や買い物、マッサージ、園芸など様々なお手伝いをして下さり、イベントも週に1回程度開催しています。

これからも一人でも多くの方に「ここに来て本当によかった」と思って頂けるよう励んでまいります。

チアドッグ(チアガールの犬バージョン)月に一回犬との触れ合いの時を持っています。



ホスピス財団 2019年度 事業計画書 (概略)

(2019年4月～2020年3月)

1. ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業 (公募)
2. 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業 (第4次調査・4年目)
3. 『ホスピス・緩和ケア白書 2020』
(特集テーマの概説+データブック)
4. 救急・集中治療における緩和ケアの推進
5. ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
6. Whole Person Care ワークショップ開催事業
7. 『Whole Person Care : Transforming Healthcare』
翻訳事業
8. 「ともいき京都」におけるがん体験者・市民主体の
プログラム創生事業
9. 緩和ケア・支持療法領域に関わる医療従事者を対象と
した意思決定支援に関する研修セミナーの開催
10. ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
11. 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
12. 第3回国際 Whole Person Care 学会参加
13. ホスピス財団 第2回 国際セミナー開催事業
14. APHN 関連事業費
15. 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール
第3期共同研究事業

寄付者一覧(2018年9月～2019年2月 順不同、敬称略)

(個人) 田中 信 坂倉 有紀 匿名1名

(団体) 阪神聖書研究会

新規賛助会員(2018年9月～2019年2月 順不同、敬称略)

(個人) 白樫 三四郎 東 茂生 山田 靖子

(団体) イーメッセージグループ株式会社

株式会社 メディカルー光

ホスピス財団 2019年度収支予算書 (概要)

2019年4月1日から2020年3月31日まで (単位:千円)

科 目	2019年度予算
【経常収益】	
①基本財産運用益	3,300
②受取寄付金	24,900
(内訳) 賛助会費収入	19,400
一般寄付金収入	500
使途指定寄付金	5,000
③雑収益	1,300
経常収益計 (A)	29,500
【経常費用】	
①事業運営費	40,050
(内訳) ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	14,305
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	11,678
ホスピス・緩和ケアに関する普及・啓発事業	6,273
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	7,794
②一般管理費	5,921
経常費用計 (B)	45,971
当期経常増減額 (A - B)	▲16,471

不足分は前期繰越金等で充当予定

寄付・賛助会員のお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として**相続税の非課税財産**となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは **06-6375-7255** です。

編集後記

2011年の東日本大震災以来、グリーフケアの一環として宗教的ケアの必要が掲げられるようになり、昨年には、日本臨床宗教師会が発足し、また本号でも取り上げたように、日本グリーフ&ビリーブメント学会も設立され、この2月に第1回学術大会が開催された。日本では、仏教、神道、キリスト教をはじめ多くの宗教が混在している中、このように宗派を超えて宗教者が協働できることは、とても意義あることと思われる。上記第1回学術大会は、仏教系の龍谷大学で開催され、学会設立記念講演の演者は、キリスト教系の上智大学グリーフケア研究所の高木シスターであり、参加者の中には多くの僧侶がおられたことから、宗派を超えて共に尽くしておられることを実感させられた。超高齢化社会、多死時代を迎える中、これからの宗教界の活躍に多くの期待を寄せるものである。

“真の寛大とは、私が思うに、自分自身の信仰にゆるぎない確信を持ちつつも、あらゆる誠実な信仰に対しては、それを許容し認めることでもあります。(中略)それが、全人類と、友好と平和的關係を持つことの源泉であります。”

内村鑑三『余はいかにしてキリスト信徒となりしか』より

編集子



座禅草(滋賀県高島市)